

K A L I N

京都大学図書館機構のYouTubeチャンネルを開設しています！
KULINEの利用案内や文献検索の動画を公開中です。ぜひ一度ご覧ください。

Be sure to check out the YouTube channel of the Kyoto University Library Network!

京大図書館きこうチャンネル

<https://www.youtube.com/@kulibrarynetwork>



環onのご案内



【Opening hours】weekdays 8:40 - 18:30

【Access】人間・環境学研究科棟1F東側

※ご利用には学生証または図書館利用証が必要です。
※オンライン授業にご利用いただけます。
※蓋つきの飲み物は持ち込み可能です。
食事はご遠慮ください。

人間・環境学研究科棟の1Fには、「話せる図書館」がコンセプトの環onという部屋があります。
こちらでは発話をともなうオンライン授業の受講も可能です。

Wa-on is a library where you can talk. You can take online classes there.

京都大学 吉田南総合図書館（愛称：逍遙館）〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
Tel : 075 (753) 6524, 6525 Email : a30yslib@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
Web : <https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/> X(Twitter) : @yoshidasouthlib

Web



特別企画
(裏面)

紙上再現レポート

先輩による卒論・修論相談会

Workshop on thesis writing by Senpai (Japanese only)

イベントスケジュール

Schedule

2024年度後期開館日程表

Second Semester Calendar for 2024

開館日程表 <2024年度後期> / Calendar

There might be a change in schedule. Please refer to our X (Twitter) or website.

00	9:00-20:00	00	10:00-15:00	00	休館 / Closed	00	定例休館(環on開室) / Closed
----	------------	----	-------------	----	-------------	----	----------------------

10	1	2	3	4	5	6	7
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30	31					
32	33	34	35	36	37	38	
39	40	41	42	43	44	45	

11	1	2	3	4	5	6	7
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
29	30	31					
32	33	34	35	36	37	38	
39	40	41	42	43	44	45	

The figure displays two 7x7 grids, each representing a week of the month. The columns are labeled with the days of the week: S (Sunday), M (Monday), T (Tuesday), W (Wednesday), T (Thursday), F (Friday), and S (Saturday). The rows represent the days of the month, with numbers 1 through 29 placed in specific cells.

Grid 1 (Left): This grid shows the distribution of numbers 1 through 29. The numbers are placed in the following cells:

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

Grid 2 (Right): This grid shows the distribution of numbers 1 through 29. The numbers are placed in the following cells:

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2

S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3

S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

イベント予定 / Schedule

■ Virtual Tour

August 19th - September 27th

■Hyakumanben *Haiku* Gathering Part2

October 7th

■ Closed in winter

December 27th - January 3rd

■ Guidance session

Writing Reports and Papers:

What You Need to Know

Scheduled for January

■ Closed in spring

March 25th - April 3rd

■ 秋季入学者オリエンテーション

8月19日-9月27日

■ 百万遍句会 Part2

10月7日

■ 冬季休館

12月27日-1月3日

■ 後期講習会

おさらい講習会(仮)

1月頃を予定

■ 春季休館

3月25日-4月3日

図書館からのお知らせは
こちらでCheck!→



吉田南総合図書館
X(Twitter) @yoshidasouthlib



京都大学図書館機構
The Kyoto University Library Network

お知らせ / News

1階に書架を増設したことに伴い、本の移動作業を行いました。お探しの資料が見当たらない場合は、スタッフまでお声がけください。

We moved the books because we added book racks on the 1st floor. If you cannot find the material you are looking for, please contact staff.



先輩三人で後輩に寄り添ってみた

※この記事は〇二〇四年七月八日に行われた「先輩による卒論・修論相談会」での内容から一部抜粋。編集したものです。事前に編集した質問に先輩が答えていました。

答えてくれた先輩たち

Yさん
大学院法学研究科 修士2回生
専攻：現代政治学・欧米政治Kさん
大学院文学研究科 修士1回生
専攻：哲学倫理学Cさん
大学院人間・環境学研究科
博士課程3回生
専攻：哲学（文献研究）

Q テーマはどうやって選んだの？

Y 僕は「リサーチのはじめかた」*1という本をお薦めします。経験上、テーマそのものをどう選ぶかが難しいですね。研究をどうやるかという本はたくさんあるけれど、そもそも テーマをどうやって見つけてくるのかという説明が他の本ではなかなか書かれていない。この本ではそれが紹介されています。また、この相談会で話す僕らの経験からも「こういうふうに見つけた人もいるんだな」と参考にしてもえらたらいいなと思います。

K 「トピックにどうやってたどり着くのか」ですが、私の専門の倫理学では「これっていいの？悪いの？」といったトピックをメインの問いにしがちなので、身の回りで「これっておかしいくない？」みたいなネタを拾いやすかったです。

逆に言うと、その問いを、専門分野の中にどう当てはめるのが難しかったです。新しいことを卒論レベルでやろうとするのは正直かなり大変です。卒論って、学部で卒業する人にとっては「集大成だ」と感じやすく、大きな問いにしたくありません。でも、身も蓋もない話ですが、卒論はアカデミックな文章を書く練習なんですよ。

なので「問い」で言うと、先輩には「もう何でもいいから早く決めてとりかかれ」って言われることが多かったんですよ。」「とりあえず選んで走り出すんだ」みたいな。

問いそのものが見つからない時は、**概論書や入門書を二冊読みなさい**と先生からよく言われました。一冊目が外でも二冊目を読んだらカバーできることが多いから。でも、やっぱり「問い」をどう特定の分野に落とし込むか、が大変でした。

Y 僕の場合も結構似た壁がありました。でも、やっぱり自分が好きなことをやるのがいいと思うんですよ。特に文系の学問においては自分でテーマを決めることが多いと思うんです。自分が興味を持っているものをまず選ぶといいと思います。特に最初は幅広く考えることが大事です。

それはこの本（「リサーチのはじめかた」）にも色々紹介されています。「まずは自分が興味のあることをざっくりでいいので選ぶ。それをGoogle Scholar（スカラー）*2やZIN（サイニ）*3などの検索サービスで一度調べて、検索結果を全部見る。その上で、その文献や資料は面白そうだと思うたらそれに〇、微妙かなと思ったものには△、のようにとりあえず振り分ける。それを二十四時間寝かせて、「一日経ったらもう一回見て、本日に興味あるかを確かめる」みたいな実践的な方法が紹介されている本です。正直言うと僕はそこまでやってないです笑

ただ、実際やっていく中で、広く見ることに、問いを複数広げられるぐらいの視野で見ておくことが大事だなと思います。最初、自分が興味を持ったものから、どういふに捉えることができるかを初めのうちに色々試していく。そこから卒論や修論で量的に一番充実した内容で取り組めそうなことを絞り込んでいくやりかたがいいんじゃないかなと思います。

K それで言うと日々の生活でネタを探すアンテナを張っておくのはすごく大事だと思います。漫然と本を読むよりも、興味が出るものを探そうと思いついたら読んでいた「これって何だろう」という問いを見つつけやすくなる。他の人が面白いと感じるトピックは何だろう、などを意識する視点も養われる気がします。

C そうですね。

Y 文系の特徴なのかもしれないませんが、学術書や新書だけじゃなくて、ニュースなどで実社会がどういふに動いているか、よく観察するのも大事だと思います。特に社会科学（つまり経済学とか法学、政治学などは、比較的観察しやすく客観的な指標に置き換えやすい分野だと思っています。

Q テーマを広げすぎて内容がばやける…

K これに関しては「論文の教室」*4という本がお薦めです。どの本にも書いてあると思うんですが、問いはとにかく小さく細かく設定すべしのです。自分のテーマがばやけかしているなら、その中でどういう構図になっているのか考える。例えばAとBとCっていう内容があって、AとBはCの結論の前提、つまりその材料になっているな、AはBの補助かな、というように分析できたら「今回はAだけにしとこう」というように絞れる気がします。

Y この話は文献先行研究にも関係すると思います。問いを小さくしていく中で「この研究はこの分野」と分類していく形で文献整理をする。それは、問いを意識することのできるのかなと思います。

K 最初はなかなかこれ（文献整理）ができませんでした。トライアンドエラーで、うまくいかなければ進めるしかないという状況でのモチベーションの維持は大事だと思います。博士まで行くにさすがに慣れますか？

C いや、少なくとも卒論の段階では私は鬱陶気だけでやってたよ笑

K・Y（笑）

K 見切り発車ってことですか？

C そうですね。私の場合、所属研究室でその年に卒論を書く人間が一人だったということもあって、私は学部四回生の十月ぐらいで「自分が何もしていない」ことに気づいた。

K 締め切りはいったんだったんですか？
一月末に出さなきゃいけないくて、もう残り三ヶ月しかないです。その時点で、テーマにしていたガダマーという思想家の著書「真理と方法」*5しかまともに読めてなくて。「もうこれで書くしかない」と思って取り掛かりました。

K 文献を読むのって、もっと早くやっておけば良かったって絶対後悔しますよね。夏休みぐらいから読み始めたほうが良さそう。

C 「バツて決めてガーって読めば、なんかいいんじゃない？」って思うけど、まあそんなふうにまいいいじゃないわけですよ。浅はかにも当時の私は「真理と方法」だけじゃあえす読んだきゃなんとなかるんじゃないかと思っていました。ところがいいけど、人から言われても、当時の自分の中ではまだその大事さが分かっていなかった。「どうしてそんなもん読まなきゃいけないの」と思ってしまっただけであまり読む気になれないわけです。

問いの大きき話ですが、それを決める時って、文字数や問いのスケールを限定するだけで結構時間がかかる。それらを限定する作業があることが、書く前からは分かっているものだけだね。

例えば、私の場合だと『真理と方法』の第二部に関して、著者のガダマーが言及や批判をしている古い哲学者は誰々だから、その人をガダマーがどのように批判しているかに着目しながら読む、そんなふうに限定して、問いの大きさがそこに収まるようにしたりするわけです。

そうすると、何を調べたら良いかも見通しが立てやすくなる。そういつたことを探るためになんとか書いてみる。なんとなんとか「二つ分かん」みたいな仕方て問いを区切る。またなんとなんとか書いてみる。そういつた時間が必要なのに十月まで気づかなかった訳です笑

K ところでつまづかっていうのが一回目は全然見えなくて、二つ目の作業量が莫大に大きかった。「テーマなんてつかめない、自分が卒論で何をしたいかなんてよく分からない」と思いながらも、とりあえず何か書いてみるっていうのが大事です。

K それで言うと「分かんないからでさきない」だと多分一生書けない気がします。分かんないから進められない、だとマジで一步も進まず。とりあえず分かんないけど読むか、とか、分かんないけどこのパラグラフのまめめは多分これかな、みたいに、本当に手探りでやっていく感覚が強かったですね。もがきながらやってたら多分それはうまくいって、ってことじゃないかなっていう気がします。

Q 先行研究の際に役立った方法は？

Y レビュー論文っていう種類の論文があります。社会科学系の分野は特に盛んだと思うんですけど、テーマについて分析するタイプの分析系の論文と、これまでの分析系の論文をまとめてレビューした論文っていうのがあるんですよ。

K それは便利ですね。

Y 一番有名なのがアニュアルレビューっていうもので、Annual Review of 何々、ってのがあるんですよ。それは政治哲学系では結構有名です。

例えですが、僕が一番読んでいるのは、Annual Review of Political Science*6。というもので、これまでのポリティズム研究や、ポリティズム研究はどういうものがされてたか、みたいなものを扱う研究がまとめられているって便利だ。

あとは書評ですね。これまでの人がどのように研究を批判していたか調べる。書評の中にも参考文献が引用されていますから、そこから文献を広げていくっていうやりかたもあります。

C 書評やサーヴェイ論文（レビュー論文）の参考文献リストね。

K そういうリストから本を探せば、実はテーマが全く違う本を読んでもという失敗も少なくなりますよね。読んだ本から芋づる式に次の本を探すのが確実だと思います。

C それで読み進めていって、もしその論文の論点が自分の知リたがっていたことと合わなくて、またそれで何か別の新しいことが分かったりすることもあるしね。

Y あともうひとつ。そういう作業がある程度やったら、自分が興味ある分野はこの研究者がすごく真剣に取り組んでいるってことが分かってきます。その人のGoogle Scholarを調べてGoogle Scholarアラート*7っていうのを設定できちゃすね。ちなみにGoogle Scholar*8っていうのは、Googleのアカデミックな情報検索専用のページです。通常の検索窓に「Google Scholar」と入れて検索するだけで移動できます。

アラートの設定はどうかというところ、Google Scholarのホームページに自分のGoogleのアカウントで入って、そこで研究者のGoogle Scholarのページを開くと、メールボタンみたいなのがあるんですよ。それを押すとその人が何かパブリッシュした時に自分のメールに通知が来ます。それから、その人がやった研究が誰かの論文で引用された時、つまり被引用の場合もメールが来ます。

K 気になる研究をリアルタイムで追えるんですね。

Y そうなんです。だから僕の3月3日はGoogleのBlogからいっぱいメールが来々笑。とりあえず最新の研究動向を追うこともできるのにお薦めです。

K これは最新のものを追う方法って感じですね。気になる人が決まった後にもうひたすら読むぞみたいなモードの時に使うってことです。

Y ちなみに画面を開くと、検索窓の下に「巨人の肩に立つ」みたいな名言が出てくるんですよ。これは研究でよく言われるもので、今までの偉人が積み重ねてきたものの力を借りて視野を広げるって意味なんですけど、すごく励まされますよね。

Q モチベーションの維持は？

Y 千年に一人の天才じゃなきゃ、自分しかやってないテーマなんてないですよ。でも他方で自分しかなかった。他の人が思いついてないテーマって意外にあると思うんです。近いテーマだったら誰かやっているけど、このテーマは僕しかやってない、この着眼点は今のところ僕しか持っていないというものがあれば、眼点はその瞬間、自惚れですけども、特別になったって感覚ができて、ちよっと頑張ってみるか。

あとはまだ自分が若いから言えることだと思いますけど、今はあんまり成果にこだわらず研究できていますね。自分の論文をどっかにパブリッシュしてそれがアクセプトされて、って業績を作ることはいずれ考えないといけないんですけど、今に関しては業績よりも自分の好きなことを研究する方が楽しいじゃんっていうマインドで取り組んでいる。今はこうやって余裕ぶっていらいますけど今後はどうにかちょっと分かんないですけれどね笑

K 確かに、何事もやるなら楽しくやれたらっていうのはあると思いますね。無理しない範囲で日頃からちよっと頑張ると良い気がします。

注 釈

- *1 「リサーチのはじめかた」 筑摩書房
- *2 Google Scholar Googleが提供している無料の論文検索エンジン
- *3 CINI Books 論文、図書、雑誌や博士論文などの学術情報で検索できるデータベース
- *4 論文の教室 NHK出版
- *5 真理と方法 法政大学出版局
- *6 Annual Review of Political Science